

今回の留学によって得られたと感じる「学び」や「成長」、そして、「成果」について書いてください。

中国語力はもちろんのこと、初めての寮生活ではルームメイトとの間で少し面倒なことが起きたり、逆にいい友人と出会えて最高の時間を過ごせたりと今までに経験したことがない環境にいたからこそその学びや体験を得ることができたと思います。

中国語に関しては、留学前と後ではスピーキングの面で伸びを実感しました。今思うと日本にいる時は極端に話す機会が少なかったです。しかし留学中は話すことが必須でした。特別話せる内容やレベルが上がったという訳ではありませんが、今まで表現を知っていたし、理解もできたけれど話してこなかったという部分がアウトプットされたことでしみついていったという風に思います。

また、現地の友人と一緒にいる際に彼らが話しているのを聞いて、「こういう風に言うのか！」という学びもありました。それをそのまま自身の立場に置き換えて使うことで、ネイティブの表現をそのまま学ぶことができました。

学習以外の面では、本当に良い友人に恵まれたと思います。私の中国文化大学では日本人の交換留学生は日本語学科に所属していて、私も所属していたのですが、そこで出会った学生に本当によくしてもらったと思います。一緒にご飯を食べたり、遊びに行ったり、ふざけて笑いあって、本当に楽しい時間でした。ある学生は寮が同じで、毎日部屋に行っていました。ある学生は自身の家に私を招待してくれ、家族の方も暖かく迎えてくれました。また、ある学生は月に1回僕といっしょに、台北市内を回ったり、一緒にバレーボールをしてくれました。

まだまだあってここには書ききれません。そのくらいの思い出ができました。そしてそこから、友人の大切さや、人の暖かさを強く感じました。同時にどこに行っても結局は人間性が重要だと感じました。文化や考え方の違いはもちろんありますが、人間関係ができていく上で、最終的には個人個人の人間性がものを言うと思いました。

言語や文化以上に大切なもので、自身を見直すきっかけにもなりました。「あの人は何人で、、」なんていうことは全く関係なく、人としてどういう人なのかということが世界中どこにいても大切にしなければいけないし、大切にされなければいけないことだと改めて強く感じました。

彼らとの出会いがなかったとしても、それなりに違った道で楽しいものにはなっていたかもしれませぬ。しかし、私は今回彼らに出会うことができ本当に良かったと思いますし、彼らのおかげで本当に有意義な時間になりました。学習面だけでなく、彼らと出会いを通して本当の意味で充実した留学生活を送れ、異国の地で様々な経験ができ、人間関係大切さ、人との付き合い方を学べたことが、今回の留学で得た一番の成果です。

今後の目標について書いてください。

今後の目標は、ネイティブレベルで中国語を話せるようになることです。具体的にはまず、在学中にHSK5級の取得をします。

大学から中国語を学び始めて以降、中国語学習が本当に楽しく、留学生や留学先での友人ができたことで、より学習への意欲が増しています。学んだ言語を使って意思疎通がとれる楽しさには代えがたい喜びがありますし、中国語を通して多くの良い出会いや経験を得ることができたため、これらを無駄にすることなくこれからも学習を続けようと考えています。

そして将来的には、自身のような中国語学習者や、留学を考えている方のサポートをしたり、中華圏の魅力を発信できるような職に就くことができると考えています。

履修・教務、学修面について

(例)以下のことを参考に記入してください。

- どのように学修に取り組みんだか。どのような学修が効果的だったか。
- 特に有益だった受講科目について。

履修登録は現地の大学に着き、入寮して3日後くらいの時期に始まりました。それまではそもそも履修登録が開始されていませんでした。大学のホームページから在学生用ページにアクセスし、履修登録を行うのですが、外国語でホームページの閲覧が問題なくできるほどの言語力はなかったため、慣れない作業に不安や焦りを感じました。

学部学科や教科の種類などから授業の検索をし、検索結果の中から選択するというシステムだったのですが、やはり言語面での壁が大きく、留学生に対する情報発信や支援をしている先生方のところへ行き、教えて頂きながら履修登録をしました。最終的には中国語が母語ではない留学生向けに展開されている授業に参加しました。1つだけ留学生向けではなく、現地の学生向けに開講されていた日本語から中国語への翻訳の授業も履修しました。

留学生向けに開講されていた授業は難易度的にはどれも難しいと感じることはありませんでしたが、先生の話や授業資料・教科書など、全て中国語で行われるため、その環境だけでも意義のある学びになったと思います。

また、OIUの中国語の授業では恐らく難易度的に踏み込まなかったり、教わらなかったような内容が組み込まれている授業もあり、2段階程レベルの高い内容の授業を受けることができました。その点はやはり、留学に行けて良かったと思います。

授業中の先生の説明や話を聞いているだけでも、全て中国語なので、常にリスニングの練習になりました。聞きながら同時に理解ができるかどうかを試し、聞き取れたことは”ネイティブの言い方”や”ネイティブが使う言い回し”としてメモを取ったりもしていました。

また、翻訳の授業ではテスト勉強の際、合計で15個ほどの中国語で書かれた文を暗記しなければなりません。そのためまずは文の中にある分からない単語や表現を調べ、それらの意味を理解してから分全体の意味を理解しました。その後中国語文を見ずに、日本語文から当てはまる中国語文を完璧に全て書き出せるまで紙に書き出す。このようにして暗記をしました。

また、分からなかった単語や表現も同時に習得できたため、ただのテストの為だけの勉強にはならず、実りのある学習にすることができたと思います。

また、読解の授業の教科書に出て来た単語の意味や、その単語が文の中でどういった使われ方をしているのかを理解し、簡単なものでもいいのでひと単語につき2文ずつ考えるということをしていました。YouTubeで中国語学習関連の動画を見て、そこから教科書には出てこないがネイティブが普段使う表現の仕方などの知識を入れて自分なりにまとめたりもしていました。

そして、それらを機会があれば実際の会話で使ったり、逆に聞いたりするとより自分の中に定着していき、学習へのモチベーションも上がりましたし、机に向かうだけではない学習ができたと思います。

生活面について

(例)以下のことを参考に記入してください。

・授業以外の時間は、どのように過ごしましたか。(休日・余暇の過ごし方)

私は大学内の寮で生活していました。部屋は1階にあり、3人部屋でした。下に机と収納、その上にベッドという感じで、それが3人分ありました。あとはシャワーとトイレが一緒になった浴室が1つという感じです。

寮の部屋にはWi-Fiがあり接続は十分でした。しかし、大学内のWi-Fiは接続してアンテナが立っていても使い物にならなかった為、学内ではデータ通信を利用していました。自分の部屋のすぐ横には寮全体で共用のウォーターサーバーとトイレとシャワールームがありました。このウォーターサーバーに関しては寮だけでなく、大学校舎内にも多く設置されており、いつでも冷水・ぬるい水・熱湯から選択してペットボトルや水筒に注ぐことができましたし、カップ麺などを作る時にも使用しました。

また、共用の洗濯場も1階にあり、洗濯と乾燥をそれぞれ行っていました。洗濯場の傍にはカップ麺と飲み物の自販機がありました。部屋では靴やサンダルを履いて過ごしていました。初めの頃は浴室が汚かったのでルームメイトと掃除道具などを買いに行き、掃除をして最低限きれいになりました。特に素足で入れるきれいさではないので、浴室用にサンダルと足を拭くマットを買い、使用していました。

水道水は飲める水ではないので、入浴の際は飲まないように気を付けていたのと、歯磨きやうがいの際は外のウォーターサーバーの水をコップに入れてそれを使用していました。飲み水も入れていました。ルームメイトはフランス人とベトナム人で22歳と25歳でした。仲が悪いまではいきませんが、生活リズムが違うことで過ごしにくかった部分もありました。

しかし、同じ寮で別の台湾人の友達ができからは風呂上りにドライヤーを借りるついでに、その友人たちの部屋で話して笑って、非常に楽しい時間でした。

食事に関しては学内の食堂や学校を出てすぐ近くのお店で食べたり、テイクアウトをしたり、学内外のコンビニで買っていました。

また、学内には無料で使えるジムがあり、後半の2か月間は現地の友達と週に2回1時間ほど利用していました。学内にはバレーボールコートとバスケットボールコートがそれぞれ4つずつ程あり、週に1~2回はバレーボールもしていました。外出の際は基本的にバスで山を下り、早いと15分ほどで捷運劍潭站という電車の駅が目の前のバス停に着きます。外出の際はほとんどこのバス停まで来てから電車に乗り、移動していました。

また学校に帰る際もまずこの劍潭という場所まで戻って来てからバスに乗るか、共乗という学校までの値段はあらかじめ決まっており、乗車人数の数で割って支払うというタクシーに乗って帰ります。バスは座れないこともあります。共乗の場合は確実に座れてバス停から寮までの道も歩かなくていいことから荷物が多い日や疲れた時は利用していました。劍潭のすぐそばには有名な士林夜市があり、主に夜ご飯を食べるために月に3回ほど訪れていました。

費用概算

この留学にかかった留学費用総額		約 630,700 円	
内訳	渡航・帰国費用（航空券）	約 75,000 円	
	海外旅行傷害保険	約 75,000 円	
	査証（ビザ）取得費用	約 7,700 円	
	日用品	約 20,000 円	5000円×4ヶ月
	食費	約 300,000 円	75000円×4ヶ月
	寮費	約 100,000 円	25000円×4ヶ月
	水・光熱費	約 0 円	
	現地携帯電話	約 13,000 円	3250円×4ヶ月
	インターネット	約 0 円	
	利用方法 学内で利用・寮で利用・自分の携帯で利用 など		
	(複数回答可。○をつけること。)		
	その他（用途：教科書）	約 30,000 円	7500円×4ヶ月
	その他（用途：洗濯・乾燥）	約 10,000 円	2500円×4ヶ月
(医療費、教科書代などあれば)			

滞在中の費用について

まず、自身のアルバイト代が55万円、大学からの奨学金と両親から支援をあわせて、40万円の合計95万円程で留学が始まりました。

事前にRevoluteというチャージ式のVISAカードを用意し、そのカードに10万円分をチャージした状態で出国しました。

また、10万円分の日本円を現金で持って行きました。空港で10万円を全て新台幣ドル(以下NTDとする)に換金し、約2万NTDになりました。

そして、私はまず空港で無制限の4G回線で電話番号付きの135日使えるSIMカードを2,600NTD(約13,000円)で買いました。

今回の留学期間が133日だったため、良いものを買えたと思います。遠傳という通信会社のもので、次回また台湾へ来た時にチャージをすれば、新しくSIMカードを買わずとも電話番号も含めて同じものが使えるというものでした。

その後大学に着き、入寮してから2日後に、寮費・保険金などの支払いで合計20,035NTD(約10万円)、寝具や洗濯用洗剤などの生活用品で合計約4,000NTD(約2万円)の出費がありました。

また、教科書代で合計15,000NTD(約3万円)の出費がありました。これらが初期にかかった基本費用です。現金を引き出す際は、國泰世華銀行という銀行のATMを使っていました。

台北のMRTの全ての駅に必ず一台はあるため、現金が必要な際は外出の際について引き出していました。この銀行はATM側の利用手数料が無料です。また上記記載のRevoluteカードでATMを利用していたのですが、このカードは月2万円分まで外貨両替が無料なためこれらの機能を利用しながらなるべく手数料を抑えていました。カード残金は、1万円程に減ればまた10万円分をチャージするというようにしていました。

月の出費は約10万円で、その大部分が食費です。加えて3～4日に1回のペースで洗濯と乾燥合わせて60NTD(約200円)の出費がありました。

食費は日本よりも安く済ませることができまし、交通費は日本の半額というような感覚でいいかと思います。

出発前の準備と現地到着後の流れ（どの様に準備をしましたか。）

出発前は必要な書類の準備であったり、航空券の購入やVISA申請、留学先大学との連絡などを行っていました。

事前に関西空港までの特急チケットを予約したりもしていました。航空券に関しては6月の段階でINTの方とお話を始め、7月中には確約をしていました。早めに動き始めることをおすすめします。

また、VISA申請に関しては、事前に申請のためのフォームを入力し、その入力した内容をプリントアウトしなければなりません。また申請には留学先大学の入学許可証というものが必要だったのですが、その送付の時期が分からないせいで申請に行けなかったり、航空券の確定ができないう状況になった時がありました。

空港にについては大学の空港出迎えがあったのでそれを利用しました。先に現金10万円を両替し、SIMカードを買いに行きました。その後先生方がシャトルバスまで案内してくれ、それに乗って大学まで向かいました。大学までは高速も使って一時間程でした。大学についてはすぐ入寮の手続きをして、入寮しました。

それから1週間は授業前の期間で、寮費の支払いや、生活用品の買い出しなどをしていました。

留学中、大変だと感じたことは何ですか。その時にどう対応しましたか。（どう対応すればいいと思いますか）

ルームメイトとの生活リズムの違いが大変でした。

具体的には、睡眠やお風呂に関することです。留学の初めからではなく2か月目以降くらいからの話ですが、1人は寝やすくするために部屋の電気を10時には消したい。うるさいから部屋のシャワーも10時以降は使わないで欲しいというものでした。

もう1人は睡眠障害のようで、夜遅くに寝て基本的に起きるのが遅く、起きていて日中の時間帯でも電気をつけることをあまり好まないような面がありました。

また、いびきが本当にうるさく眠りにつけないときもありました。夜の消灯はとても早く、お風呂は出かけていたり用事があるとほとんど10時を回ります。特段用事がなくても10時消灯はやはり不便がありました。そこに加えて休みの日に部屋で勉強や何かしたいことがあっても電気をつけられないなど、ストレスのかかる環境でした。

最初は話合えればと思いましたが、言語の違いや個人個人の性格や生活リズム、言い争いになりたくなかったのもあり、あきらめて受け入れていました。

幸い同じ寮に住む現地の友人ができ、仲良くなったので、結果的にはその学生たちと過ごすことが多かったです。寮の中に24時間使える勉強スペースもあったのでそこで勉強をすることもありました。

シャワーに関しては共用のものを使えば結果的に問題はありませんでした。いびきに関しては一時期だけだったので何とか耐えました。

現地の友人と知り合えていて本当に良かったですし、文化・言語はもちろん、自分とは全く違う他人と生活することの大変さや不便さを知った出来事でした。

自由記入欄（次年度以降の後輩へ向けてのメッセージなど）

語学留学でその言語能力を高めるために行くのであれば、その言語のネイティブと仲良くなることです。実際私は今回の留学で現地の友達がたくさんできましたし、留学の大部分を彼らと共に過ごしました。なんのために留学するのかをはっきりさせないと実りの浅いものになってしまいます。そうならないためにも自身のぶれない意志を持つことが重要です。そうすればいつでも原点に立ち返ることができます。

また、近頃は国外に出ることに興味がなかったり怖いといった声を聞くことがありますが、そう思わずに一度日本を出てみてほしいです。きっと皆さんの中の世界が広がるはずですよ。